



遠野風土記

19

市指定有形文化財（建造物）

所在地 大工町
所有者 瑞応院

瑞応院本堂

大工町には「瑞応院」というお寺があります。このお寺は臨済宗妙心寺派のお寺で、一六五三（承応二）年に開かれました。

一六五一（慶安四）年十月、遠野南部家第二十二代領主南部直栄の娘、万が亡くなり、盛岡の聖壽寺に葬り瑞応院殿と称しました。しかし、直栄は娘の死を悲しみ、遠野に娘の戒名から名づけた瑞応院を建て、聖壽寺大鉄和尚の高弟・沢室和尚を招きました。その後娘の墓所は、盛岡から遠野の瑞応院に移されたとのことです。

建物の造りは壮大で書院、鶯張りの廊下など本格的な禅宗寺院建築となっています。また、本堂欄間の双竜と天女の彫刻は稀に見る逸品で、創建の時に彫ったとされており、本堂は市指定文化財となっています。

境内には観音堂、稲荷堂、早池峰神社などがありますが、観音堂には観音像三体があり、中央の立像は明治の初めごろに中川原観音を移したものとされています。

ホット
ひといき



四月から、広報を担当することとなりました。写真を撮ったり、記事を書くことが初めてなので、毎日悩みながら頑張っています。皆さんに楽しみにされるような広報を作っていきたいと思い、日夜勉強中です。広報づくりの参考になればと新聞や雑誌を隅々眺める毎日です。（小森）

「百聞は一見にしかず」◆地球にいいことを始めようと、近所の用事はできるだけ歩くことを実践。車で走ると見過ごしていたものに気が付いたり、季節の風を肌で感じる事ができたり、日ごろの運動不足を実感したり：◆環境に良いことは、心と体にも良いみたいです。（馬場）